

資料 2

令和 6 年度

第 1 回森林環境保全基金運営委員会

～令和 6 年度（当初）森林環境税活用事業評価シート～

高知県林業環境政策課

目次

R6-1	山の学習支援事業(林業環境政策課)	P01
R6-2	森林環境学習等推進事業委託料(林業環境政策課)	P03
R6-3	環境学習推進事業(生涯学習課)	P05
R6-4	青少年新教育施設振興事業(生涯学習課)	P07
R6-5	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	P09
R6-6	こうち山の日推進事業(林業環境政策課)	P11
R6-7	森林・山村多面的機能発揮対策支援事業(林業環境政策課)	P13
R6-8	林業大学校(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課)	P15
R6-9	森林環境情報誌作成等委託料(林業環境政策課)	P17
R6-10	森林環境学習フェア等開催委託料(林業環境政策課)	P19
R6-11	緑化促進事業(林業環境政策課)	P21
R6-12	県立甫喜ヶ峰森林公園展示林整備工事(林業環境政策課)	P23
R6-13	座談会等開催委託料(林業環境政策課)	P25
R6-14	運営委員会等開催費(林業環境政策課)	P27
R6-15	木の香るまちづくり推進事業(木材産業振興課)	P29
R6-16	環境不動産評価事業委託料(木材産業振興課)	P31
R6-17-1	指定管理鳥獣捕獲等事業委託料(中山間地域対策課)	P33
R6-17-1	指定管理鳥獣捕獲等事業計画策定調査委託料(中山間地域対策課)	P35
R6-17-2	第二種特定鳥獣捕獲推進事業(中山間地域対策課)	P37
R6-17-3	森林環境保全対策シカ捕獲事業(中山間地域対策課)	P39
R6-18	希少野生植物食害対策事業(自然共生課)	P41
R6-19	森林資源再生支援事業(木材増産推進課)	P43

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	牛嶋
内線	3216

R6-1

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：山の学習支援事業費補助金
大区分	こうちの森で人づくり事業
小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境教育

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
総事業費(千円)	17,535	19,413	21,773	22,173	38,661
② 財源内訳	森林環境税	17,535	19,413	21,773	22,173
	一般財源				
	その他				

③ 主な事業内容	・総合的な学習の時間等において、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等に対して、学校独自の取組みを進めるために補助する。 ・山の一日先生派遣事業に取り組む団体に対して補助する。 ・森林に関する学習と体験活動を含む宿泊型自然体験学習を補助する。 ・木育指導員養成のための取組に対して補助する。
----------	---

⑦ 事業内容(手段)

- 事業区分
- ①「総合的な学習の時間」等において年間を通して森林環境学習を実施する事業
 - ②山の一日先生を派遣する事業
 - ③宿泊型学習支援事業(学校行事)
 - ④宿泊型学習支援事業(学校行事以外)
 - ⑤木育指導員を養成する事業

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景) 事業開始年度 平成16年度

○地球温暖化や気候変動、海洋汚染や生物多様性の危機といった様々な環境問題がある中、森林率84%を有する高知県の将来を担う子どもたちにとって、自発的に問題に取り組む力を育むための環境教育はとても重要である。

○近年、子どもたちが自然の中で遊ぶ機会は少なくなってきており、指導者側の自然体験も希薄になりつつある。

○当事業を活用する学校等に森林環境学習プログラムが定着し、活用校は増加しているが、未活用市町村は固定化している。

○森林環境学習及び木育の推進に向けて指導者養成に取り組んでいく必要があるため、R5年度より木育指導員養成講座を山の学習支援事業に統合した。講座修了生が新規団体を設立(2団体)し、山の一日先生として事業を実施した。

○木育指導員養成事業の現場研修受入れの講師不足と研修現場の確保が課題となっている。

○R6年度より宿泊型学習支援事業が生涯学習課から移管された。

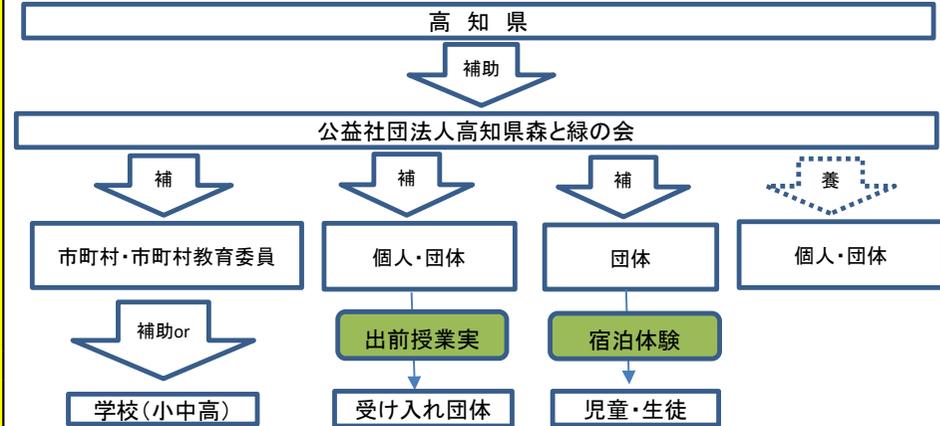
⑤ 目的とねらい(成果)

<目的>森林県である本県の子どもたちに「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子どもたちが森林への理解や関心を深め、将来にわたって山や森林を守り、大切に思う心を育むと共に、子どもたちの森林環境学習や木育を推進していく指導員を養成する。

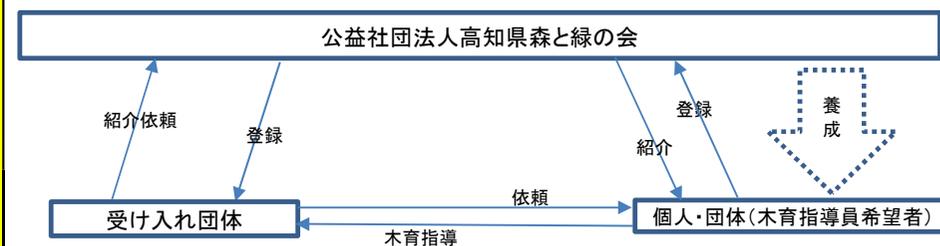
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)

県民(小中学生等、森林環境学習・木育推進の担い手となる人)

【補助の仕組み】



【木育指導員養成事業の仕組み】



令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	牛嶋
内線	3216

R6-1

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	山の学習支援事業	25,997,000円			15,816,125円
	山の一日先生派遣事業	4,500,000円			3,310,712円
	宿泊型学習支援事業	4,686,000円			
	木育指導員養成事業	590,000円			590,000円
II アウトプット (結果)	山の学習支援事業参加者数 (実施校数)	6,300人 (92校)			6,274人 (88校)
	山の一日先生派遣事業参加者数 (事業実施回数)	7,030人 (170回)			7,009人 (159回)
	宿泊型学習支援事業参加者数 (事業実施回数)	170人 (8回)			
	木育指導員養成事業参加者数 (事業実施回数)	100人 (21回)			98人 (21回)
III コスト (投入金額/結果)	山の学習支援事業/参加者数	4,127円			2,521円
	山の一日先生派遣事業/参加者数	640円			472円
	宿泊型学習支援事業/参加者数	27,565円			
	木育指導員養成事業/参加者数	5,900円			6,020円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4856

R6-2

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：森林環境学習等推進事業委託料 ：ホームページ保守管理委託料
大区分	こうちの森で人づくり事業
小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境教育

③ 主な事業内容	1) 山の学習支援事業に係るプログラム作成及び実施の支援 2) ボランティア団体に係る活動及びネットワーク強化の支援 3) 公式ホームページの保守管理
----------	---

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
・令和3年度に、山の学習支援事業の活用校の増加に向けた取組や、森林保全ボランティア活動の活性化に向けたボランティア団体の活動実態調査等に係る業務を、高知県森と緑の会（山の学習支援事業の補助団体であり、こうち山の日ボランティアネットワーク事務局も担う）に委託。 ・森林保全ボランティア団体の活動の停滞や、活動団体及び参加者の固定化が課題となっており、既存のボランティア団体の活動支援と新たな参加者の取り込みが必要。 ・令和5年度から、本委託業務により山の学習支援事業の活用校のさらなる増加を図るとともに、森林保全ボランティア団体の相談支援、ネットワーク強化により活性化を図ることとした。 ・森林保全ボランティア活動の参加者が減少していることから、平成27年度に開設した公式ホームページ「森・ヒト・こうち 応援ネット」により、森林ボランティア活動の広報を積極的に実施している。		
⑤ 目的とねらい（成果）	・森林の有する多面的な機能等について県民の理解を高め、森林環境を保全する取組への参画に繋げるため、高知県森と緑の会に①森林環境学習のコーディネート、②森林保全ボランティア活動のネットワーク強化等を図るための活動を委託し、森林整備等に関わる体験の機会を創出する。 ・幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動への支援を通じて、県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。 ・「森・ヒト・こうち 応援ネット」に県民参加の森づくり活動に関する情報を一元的に掲載し、参加者の増加に繋げる。	
⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	教育委員会、小中学校、幼稚園、保育園、ボランティア団体、県民	

事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
総事業費（千円）		2,713	2,704	3,190	8,650	8,103
② 財源内訳	森林環境税	2,713	2,704	3,190	8,650	8,103
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）
【森林環境学習等推進事業委託業務】 (1) 山の学習支援事業に係るプログラム作成及び実施の支援 ・県内の市町村教育委員会及び小中学校、幼稚園、保育所に対し、山の学習支援事業の広報活動を実施 ・令和2年度に作成したハンドブック等を活用し、プログラム作成を支援 (2) ボランティア団体に係る活動及びネットワーク強化の支援 ①広く県民の参加を募る森林保全ボランティア活動の支援 ・賃金やボランティア保険、保護具購入費など、経費の助成 ・公式サイトでのボランティア活動の広報 ②公式サイト及管理及び広報の実施 ・公式サイト及管理（事務局だよりの掲載、問い合わせ対応など） ・森林環境学習フェアや地域座談会等のイベントにおいて、ボランティア団体の活動紹介や森林環境税活用事業の広報を実施 ③ボランティア団体のネットワーク強化 ・ボランティア団体に働きかけ、こうち山の日ボランティアネットワークへの参加を促進 ・ボランティア団体同士の交流活動を実施し、横のつながりを強化 ・ボランティア団体に対し山の学習支援事業の講師等の協力を依頼 ※(1),(2)委託先：高知県森と緑の会 事業費（R6予算）：7,803千円 【インターネットホームページ保守管理委託業務】 ・公式サイト（森・ヒト・こうち 応援ネット）の保守管理実施 ※委託先：株式会社アークデザイン研究所 事業費（R6予算）：300千円

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4856

R6-2

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	学校及びボランティア団体との協議・訪問等に係る予算(業務経費)	5,052,000円			4,949,000円
	ボランティア活動支援に係る予算	2,751,000円			2,885,000円
	学校・ボランティア団体への訪問回数	64回			112回
	ボランティア活動回数	70回			68回
II アウトプット (結果)	山の学習支援事業の新規活用校数	10校			12校
	ボランティアネットワークへの新規加入団体数	10団体			9団体
	県民参加人数	1200人			1150人
III コスト (投入金額/結果)	業務経費÷(山の学習新規活用校数+ボランティアネットワーク新規加入団体数)	252,600円			235,666円
	ボランティア活動経費÷県民参加人数	2,293円			2,509円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA	
	<input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上	
	<input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上	
	<input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1)

(当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	門田 知子
内線	4629

R6-3

①	事業名	・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：森林活用指導者育成事業 ・当該事業名：森林活用指導者育成事業
	大区分	こうちの森で人づくり事業
	小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境教育

③	主な事業内容	地域の森林等、豊かな自然環境を活用し、保幼小中高の児童生徒を対象に体験を中心とした森林環境教育を実施することができる人材の育成研修を実施。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	令和3年度
	<p>平成22年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を踏まえ、本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育が行えるよう、指導者研修をはじめとする人材育成に取り組んできた。</p> <p>人材育成研修としては、これまで平成25年度から平成30年度まで指導者養成研修等委託により自然体験活動指導者を111名育成し、事業を終了した。</p> <p>令和3年度から新たに森林活用指導者育成事業を開始し、現在まで続けている。</p> <p>事業実施の背景としては、学校林を保有する県内小中学校の約3/4程度が学校林の活用を行っておらず遊休資産となっており、その原因のひとつとして間伐等を行う地域の人材不足があげられている。このことから、学校教育活動や社会教育活動における、森林保全に関する知識・技能をもつ人材や、学校林だけでなく身近な自然環境を活用した体験活動を支援することのできる地域人材を育成する。</p>		

⑤	目的とねらい（成果）	森林活用指導者を育成することで、学校林等を活用している（活用しようとしている）学校への除間伐作業補助の支援や、保育所・幼稚園の園児や小・中・高の児童生徒を対象に体験を中心とした森林環境教育（森林保全に関する知識、木工体験、動植物の観察、植林等）を推進する。
---	------------	--

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	青少年教育施設職員、地域学校協働活動参加者、地域おこし協力隊・集落支援員、大学生、教員等研修目的に興味関心のある方
---	-----------------	---

②	事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
	総事業費（千円）		2,062	2,028	2,144	755
	財源内訳	森林環境税	2,062	2,028	2,144	755
		一般財源				
		その他				

⑦	事業内容（手段）	<ul style="list-style-type: none"> ○森林活用指導者育成研修（年4回実施） <ul style="list-style-type: none"> ・市町村及び市町村教育委員会、青少年教育施設、大学等へ受講者の募集案内を送付 ・森林保全に関する知識・技能の習得、森林や自然環境を活用した体験活動や防災学習、活動する場所（森林）の環境整備ができる技能及び活動場所の安全管理能力に関する研修の実施 ○森林活用指導者資質向上研修（フォローアップ研修）（年2回実施） <ul style="list-style-type: none"> ・育成研修の修了者を対象に実施 ・実践に生かせる指導や企画方法を学び、指導者のスキルアップを図る ○研修修了者の情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・修了者を各市町村教育委員会や地域学校協働本部等関係団体に情報提供することで園や学校、放課後子ども教室等での森林環境教育の実践につなげる。
---	----------	---

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	門田 知子
内線	4629

R6-3

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	森林活用指導者育成事業	755,000円			320,419円
	森林活用指導者育成研修(回)	4回			4回
	森林活用指導者資質向上研修(回)	2回			-
II アウトプット (結果)	森林活用指導者育成研修(受講者数)	15人			11人
	森林活用指導者育成研修(修了者数)	7人			4人
	森林活用指導者資質向上研修(受講者数)	12人			-
III コスト (投入金額/結果)	当事業に参加した受講者一人あたりに要する経費(投入金額/受講者数計)	27,962円			29,129円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)		
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	青少年センター・事業課
担当者	西本 一也
内線	0887-56-0621

R6-4

① 事業名	・細目事業名：青少年教育施設管理運営費 ・細々目事業名：青少年教育施設振興事業費 ・当該事業名：青少年教育施設振興事業 青少年センター主催事業
大区分	こうちの森でづくり事業
小区分	将来を担う子どもたちなどへの森林環境教育

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
② 総事業費(千円)				0	174
財源内訳	森林環境税			0	153
	一般財源			0	0
	その他			0	21

③ 主な事業内容	1) 小学校4～6年生を対象に1泊2日の自然体験事業として20名を募集する。 2) 高知大学演習林の嶺北フィールドで、森林についての学びと体験活動を行い、森林の大切さや課題についてより深くとらえる機会とする。
----------	---

④ 事業内容(手段)	
小学生高学年児童を対象にした主催事業の一つとして開催する。高知大学農林海洋科学部の協力を得て、同大学の演習林での間伐作業や樹木観察を体験した上で、林業や自然環境に関わる課題について学び、その課題解決について互いに考えあうことで、より深く森林の大切さを理解し、自然環境を守っていこうとする態度を育てる。	

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和5年度
昭和50年代から歴年登山やキャンプなど自然体験活動を開催してきた。平成25年から「森林探検隊」として高知大学演習林での間伐や炭焼きの体験を開始し、令和4年度は「林業探検隊」として日帰り開催したが、次の課題が挙げられる。		
<ul style="list-style-type: none"> ・日帰り日程で時間が限られ、短時間での体験活動となっている。 ・林業や環境保全について学ぶ時間がなく、内容が深められない。 ・意味のある体験にするために、時間の拡大とプログラムの充実が必要。 ・令和5年度は天候不良により中止となったため、予備日を設定する。 		

- ⑤
- 1) 小学校4～6年生を対象に、1泊2日の自然体験事業として20名を募集する。
 - 2) 高知大学演習林の嶺北フィールドで以下の体験活動を実施する。
 - 林業や環境保全についての現状と課題について学習する。
 - ・ 森林の働きについて、森林を守ることの大切さ(水資源の保持、防災として)を知る。
 - ・ 森林が荒れていく現状について(担い手不足による放置、シカの被害など)知る。
 - フィールド内での林業体験・自然観察
 - ・ 樹木の観察をしたり、林業についての話を聞いたりして、実地で学ぶ。
 - ・ 除伐作業を体験し、間伐材などを活用した木工工作に挑戦する。
 - 林業や環境保全についての解決策を主体的に考える。
 - ・ 林業従事者による体験談や林業への思いを聞く。
 - ・ 林業や環境保全に関する課題について子供たち自身で向き合い、解決策を考え合う場を設け、森林との向き合い方をより深くとらえさせる。

⑤ 目的とねらい(成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加児童が山道を歩きながら植林された木々の説明を聞いたり、山の斜面で間伐体験をしたりして、林業体験をすることによって、自然と人との営みに対する感受性、木や森に対する関心を高められる。 ・ 主催者が林業や環境保全に関する課題について子供たち自身で向き合い、解決策を考え合う場を設け、参加児童が森林の大切さを理解し、自然環境を守っていこうとする態度を育てることができる。
--------------	--

⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	小学校4～6年生を対象に、1泊2日の自然体験事業として20名を募集する。
-------------------	--------------------------------------

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	青少年センター・事業課
担当者	西本 一也
内線	0887-56-0621

R6-4

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	予算額	153,000円			
II アウトプット (結果)	参加人数(人)	20人			
	参加者の事後アンケート 「森林について深く学べた」	90%以上			
	参加者の事後アンケート 「活動に主体的に取り組めた」	90%以上			
III コスト (投入金額/結果)	当事業に参加した県民一人 当たり要する経費(円)	7,650円			
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1)

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中川 信子
内線	3300

R6-5

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業費 ・細々目事業名：高校生森林環境理解事業 ・当該事業名：高校生森林環境理解事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な事業内容	河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。
---	--------	---

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
	<p>森林内での実践的・体験的な活動を通して、森林の機能や役割、維持管理についての知識や技術を習得し、さらに環境問題など身近な課題を解決するための資質・能力を身につけている。</p> <p>課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕がないことがあげられる。今後、教科横断的な学習の立案など、より効果的な環境教育を推進していく必要がある。</p>		

⑤	目的とねらい (成果)	<p>鏡川・四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、森林植生の学習、適切な森林管理が下層植物の植生に影響を与えることを、現地での調査を通して学習する。</p> <p>フィールドワークでは、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちについて学び、実践的な活動から環境問題などの身近な課題の解決を図る資質能力を身につける。</p> <p>学校演習林の積極的な活用を目的とし、学校演習林などから搬出した間伐材の利用をとおして、森林環境の保全に対する意識を高める活動や、適切な森林管理、森林の多面的機能を維持するための学習を展開する。</p> <p>地域の林業事業所が管理する森林の現場に視察を行い、適切な森林管理が環境保全につながることを理解する。</p> <p>地元木材を利用した木工品を作成し県外で地元特産物PRイベントの際に来場者に配布し、森林資源の有効活動と自然活動の保全について広く伝える活動を行う。</p>
	⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)

事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
総事業費 (千円)		820	932	1,147	1,078	2,128	
②	財源内訳	森林環境税	820	932	1,147	1,078	2,128
		一般財源					
		その他					

⑦	事業内容 (手段)	<p>学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林から間伐材を搬出し、森林資源の有効活用と適切な森林管理を通して森林環境理解の充実を図る</p> <p>実施予定校 ・四万十高等学校 ・高知北高等学校 ・幡多農業高等学校 ・窪川高等学校 ・嶺北高等学校</p>
---	-----------	---

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中川 信子
内線	3300

R6-5

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	校内・校外学習 (フィールドワーク等)事業費	2,128,000円			1,078,060円
II アウトプット (結果)	校内・校外学習 (フィールドワーク等)人数	796人			795人
	校内・校外学習 (フィールドワーク等)回数	81回			80回
III コスト (投入金額/結果)	事業費/校内・校外学習人数	2,673円			1,356円
	事業費/校内・校外学習回数	26,272円			13,476円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA	
	<input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上	
	<input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上	
	<input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	馬場 智也
内線	4586

R6-6

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金
大区分	こうちの森で人づくり事業
小区分	県民の森や山に対する主体的な活動

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
② 総事業費(千円)	5,484	7,044	6,505	7,628	9,043	
財源内訳	森林環境税	5,484	7,044	6,505	7,628	9,043
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業に取り組む団体に対して補助する。
----------	------------------------------------

⑦ 事業内容(手段)

○事業区分
【森づくり】 ①間伐 ②環境整備 ③植栽 ④竹林整備
【木使い】 ⑤木工 ⑥木材普及
【森林体験と教育】 ⑦森林体験 ⑧森林環境教育

【補助の仕組み】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会]
      B -- 補助 --> C[団体]
      B -- 補助 --> D[市町村]
    
```

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
<p>○人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や山を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日(11月11日)」が制定された。</p> <p>○「こうち山の日」に対する県民の認知度は必ずしも高くないため、継続的に普及啓発をしていく必要がある。</p> <p>○当事業は、事業の開催規模や参加人数、係る費用の大小に関わらず、1件につき最大25万円の補助を行っているが、規模の大きなイベントを実施している団体からは、会場警備や駐車場スタッフの確保に係る費用が発生しているとの意見もあり、より多くの県民が参加できるよう、補助の拡充等を検討する。</p>		
⑤ 目的とねらい(成果)	<p><目的>「こうち山の日」制定趣旨に基づく取組を支援し県内各地で森林に対する普及啓発を行うことによって、県民の山への理解と関心を深める。また、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、自ら行動することによって山を守り次代へと引き継いでいくことを推進する。</p>	
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	県民	

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	馬場 智也
内線	4586

R6-6

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	事業実施団体数(団体)	25団体			23団体
	執行額(円)※事務費除く	8,878,000円			7,628,442円
II アウトプット (結果)	参加人数(人)	7,400人			7,281人
III コスト (投入金額/結果)	執行額(円)／参加人数(人)	1,200円			1,048円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	馬場 智也
内線	4586

R6-7

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費 ・当該事業名：森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金
大区分	こうちの森で人づくり事業
小区分	県民の森や山に対する主体的な活動

③ 主な事業内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業に取り組む団体に対して補助する。
----------	------------------------------------

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成29年度
<p>○平成25年度に国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金が創設され、里山林の保全管理や資源を利用する活動を行う団体に対して支援が行われるようになった。(国費のみで県・市町村の負担必要なし)</p> <p>○平成29年度から新たに5年間の延長が行われ、令和3年度まで継続されることになった。延長に際し、事業の仕組みの見直しが行われ、地方公共団体が一定の金額(国負担額の1/3相当)を負担する案件を優先採択することとなったため、地方負担分のうち1/2を県で補助することとした。(県の負担分は、国負担額の1/6相当となる)</p> <p>○令和4年度から新たに5年間の延長が行われ、令和8年度まで継続されることになった。</p> <p>○同一箇所での活動は3年までとするR元年度の要件改正の影響や、活動メンバーの高齢化等の影響により、実施団体・森林整備面積とも減少傾向になっている。</p> <p>○国予算額の削減に伴い、本県への配分額減少が続いており、要望の満額の内示を受けていない状況にあることから、事業拡大を図ることが困難になってきている。</p>		

⑤ 目的とねらい (成果)	<p><背景と目的>森林の有する多面的機能を発揮するためには、適切な森林整備や計画的な森林資源の利用が不可欠だが、林業の不振、山村地域の過疎化・高齢化により森林の手入れを行う地域住民が減少し、適切な森林整備等が行われていない箇所が見られる。そのため、地域住民等による森林の手入れ等の協働活動への支援を行うことが必要である。</p>
---------------	---

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	地域住民、森林所有者、自伐林家等で作る団体
--------------------	-----------------------

② 事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
総事業費(千円)	6,637	6,268	5,260	4,628	4,806	
財源内訳	森林環境税	6,637	6,268	5,260	4,628	4,806
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容 (手段)

○事業区分
(1) メインメニュー
【活動推進費】(初年度のみ)
現地の林況調査、活動計画の実施のための話し合い、研修等。(18,750円以内)
【地域環境保全タイプ】
(里山林保全)
・集落周辺の美しい里山林を維持するための景観保全・整備活動、松林の健全性を維持するための保全活動、風倒木や枯損木の除去、集積、処理。
(1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,000円/ha 以内)
(侵入竹除去・竹林整備)
・高密度に侵入したモウソウチク等の侵入竹の伐採・除去や利用に向けた取組。
(1年目 47,500円/ha、2年目 44,000円/ha、3年目 40,500円/ha 以内)

【森林資源利用タイプ】
里山林に賦存する広葉樹等の森林資源を木質バイオマス、炭焼き、しいたけ原木等及び伝統工芸品原料に活用することを目的とした樹木の伐採、玉伐り、搬出等。
(1年目 20,000円/ha、2年目 19,000円/ha、3年目 18,000円/ha 以内)

(2) サイドメニュー (メインメニューと組み合わせることにより実施が可能。)
【森林機能強化タイプ】
事業の円滑な実施や森林の多面的機能の維持・発揮に必要な路網や歩道の補修・機能強化活動等。(100円/m以内)
【関係人口創出・維持タイプ】
地域外関係者との活動内容の調整、地域外関係者受入のための環境整備、これらの活動に必要な森林調査・見回り等(8,000円/年以内)

【補助の仕組み】

```

graph TD
    A[国] -- 交付 --> E[活動組織]
    B[高知県] -- 補助 --> E
    C[市町村] -- 補助 --> E
    D[公益社団法人高知県森と緑の会(地域協議会)] -- 補助 --> E
    
```

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	馬場 智也
内線	4586

R6-7

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	事業実施団体数(団体)	33団体			36団体
	執行額(円)	4,806,000円			4,627,679円
II アウトプット (結果)	a 環境保全タイプ(ha)	92.5ha			89.9ha
	b 竹林整備タイプ(ha)	34.5ha			29.2ha
	c 資源利用タイプ(ha)	25.8ha			25.8ha
	a+b+c 森林整備面積(ha)	152.8ha			144.9ha
III コスト (投入金額/結果)	執行額(円) / 整備面積(ha)	31,453円			31,937円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	森づくり推進課
担当者	森田 早紀
内線	4571

R6-8

① 事業名	・細目事業名：林業大学校研修事業費 ・細々目事業名：短期課程研修事業費 ・当該事業名：林業大学校（短期課程）研修業務等委託料
大区分	こうちの森で人づくり事業
小区分	県民の森や山に対する主体的な活動

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
② 総事業費(千円)	562	568	637	652	647	
財源内訳	森林環境税	562	568	620	650	647
	一般財源	0	0	17	2	0
	その他	0	0	0	0	0

③ 主な事業内容	作業安全研修の開催
----------	-----------

⑦ 事業内容(手段)	<p>伐木等の作業安全研修にかかる講習を委託により実施 (委託先：(公財)高知県山村林業振興基金)</p> <p>1. 作業安全研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェーンソー特別教育①(ボランティア) 回数：1回(3日間) 定員：10人 日程：(学科)9月4日～5日、(実技)9月6日 ・チェーンソー特別教育②(ボランティア) 回数：1回(3日間) 定員：10人 日程：(学科)1月29日～30日、(実技)1月31日 ・刈払機安全衛生教育①(ボランティア) 回数：1回(1日間) 定員：10人 日程：8月30日 ・刈払機安全衛生教育②(ボランティア) 回数：1回(1日間) 定員：10人 日程：2月7日 ・チェーンソーの目立てと林業用刃物の研ぎ方①(ボランティア) 回数：1回(1日間) 定員：10人 日程：9月27日 ・チェーンソーの目立てと林業用刃物の研ぎ方②(ボランティア) 回数：1回(1日間) 定員：10人 日程：2月14日
------------	---

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成17年度
⑤ 目的とねらい(成果)	<p>ボランティア団体の中には、搬出間伐を行うところもあり、また、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用する活動組織も増えている。経験の浅い方が森林で作業する機会も増え、参加者の安全を確保するため、安全研修を充実させる必要がある。</p>	
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	<p>森林保全ボランティア活動により森林整備を行う方を対象に、伐木作業等や刈払機等の操作にかかる安全衛生に関する知識や機械メンテナンス技術の向上を図ることによって、現場の事故防止につなげることを目的とする。</p>	
⑥ 森林整備	<p>県民(森林保全ボランティア)</p>	

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	森づくり推進課
担当者	森田 早紀
内線	4571

R6-8

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	研修委託料(円)	647,000円			651,795円
II アウトプット (結果)	チェーンソー特別教育(人数)	20人			講習人数 16人
	刈払機安全衛生教育(人数)	20人			
	チェーンソーの目立てと林業用刃物の研ぎ方(人数)	20人			
III コスト (投入金額/結果)	研修委託料(円)/受講者人数(人)	10,783円/人			40,737円/人
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	横山
内線	3216

R6-9

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境情報誌作成等委託料
大区分	こうちの森で人づくり事業
小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報

③ 主な事業内容	森林環境税やこうち山の日に関する取組など、森林や山に関する情報誌の作成等を行う。
----------	--

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
<p>○森林環境税を利用して、県民参加の森づくりを推進してきているが、若い年齢層や子育て年齢層では森や山への理解や関心があまり高くない状況にある。</p> <p>○紙面のみでは小中学生や若い年齢層の関心をもらえず、ホームページやSNS等を通じた広報も必要であるが、現状では認知度や影響力の向上が課題。</p> <p>X(旧twitter) :H30.12開設フォロワー279人(R6.6月) 目標600人(R8.3月)</p> <p>youtube :H31.1開設チャンネル登録者数134人(R6.6月) 動画投稿数71本(R6.6月) 目標250人(R8.3月)</p> <p>Instagram :R5.7開設155人(R6.6月) 目標300人(R8.3月)</p>		

⑤ 目的とねらい (成果)
<p><目的></p> <p>○森林環境税を活用した事業の取組や、森林や山に関する情報を分かりやすく広く伝えることによって、県土の84%を占める森林の公益的機能やその大切さを県民各層が認識し、森林環境税への理解を深めてもらうことを目的に平成29年度まで「mamori」の発行を行った。</p> <p>○平成30年度からは、タイトルを「もりりん」として、森林環境税を活用した取組だけでなく、県内での様々な取組等を紹介するとともに、動画など誌面以外のコンテンツとも連携したPRを行うことにより、森林の持つ多面的な機能をターゲットとする若い世代に、より理解を促すことを狙いとしたリニューアルを行った。</p>

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)
<p>県民 (特に①20~30代②小中校の全児童・生徒)</p> <p><理由></p> <p>①森林環境税のアンケートで認知度が特に低かったことに加え、住宅購入などで木材利用が期待できる世代であるため</p> <p>②次世代を担う子どもたちの啓発のため (親世代が①の対象である可能性が高いため)</p>

② 事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
総事業費 (千円)	8,293	7,317	7,317	9,194	9,212	
財源内訳	森林環境税	8,293	7,317	7,317	9,194	9,212
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容 (手段)																						
<p>【森林環境情報誌作成等実施委託】</p> <p>1 企画提案書を業者に提出させ選定 (プロポーザル方式) し、委託契約を締結</p> <p>2 年度内に2回、情報誌を発行予定。発行予定部数 各8万3千部×2回 R4:12ページ→R5:16ページ</p> <p>3 県内を中心に各市町村、量販店、道の駅等と県内全小中学校、全保育・幼稚園児の各家庭に教育委員会を通じて配布</p> <p>4 3と並行してインターネットを活用した広報も行う。またR5から動画コンテンツ等を拡充。</p> <p>【令和6年度の計画】</p> <p>・発行：12号、13号 各8万3千部</p> <p>・配布先：○県内の量販店、市町村役場、道の駅、県内全小中学校の各家庭など約2,300箇所 ○こうち山の日推進事業、森林環境学習フェアなど森林に関するイベント など</p> <p>(過去の情報誌の掲載内容)</p> <table border="0"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>山に触れ、楽しむ</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>生物多様性と水源かん養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>雨による土砂流出や山地災害の防止</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>学校林と施設紹介、森林環境税</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山の一日先生と緑の募金</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>自然界との共生</td> </tr> <tr> <td></td> <td>林業大学校紹介と森に関わる仕事</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>身近な木を使う</td> </tr> <tr> <td></td> <td>森林の循環を作るために使う号</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>いいね！木づかい</td> </tr> <tr> <td></td> <td>森はまるごとSDGs</td> </tr> </table>	平成30年度	山に触れ、楽しむ	令和元年度	生物多様性と水源かん養		雨による土砂流出や山地災害の防止	令和2年度	学校林と施設紹介、森林環境税		山の一日先生と緑の募金	令和3年度	自然界との共生		林業大学校紹介と森に関わる仕事	令和4年度	身近な木を使う		森林の循環を作るために使う号	令和5年度	いいね！木づかい		森はまるごとSDGs
平成30年度	山に触れ、楽しむ																					
令和元年度	生物多様性と水源かん養																					
	雨による土砂流出や山地災害の防止																					
令和2年度	学校林と施設紹介、森林環境税																					
	山の一日先生と緑の募金																					
令和3年度	自然界との共生																					
	林業大学校紹介と森に関わる仕事																					
令和4年度	身近な木を使う																					
	森林の循環を作るために使う号																					
令和5年度	いいね！木づかい																					
	森はまるごとSDGs																					

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	横山
内線	3216

R6-9

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	執行額(円)	9,193,580円			9,193,580円
	情報誌発行部数(部)	166,000部			166,000部
II アウトプット (結果)	読者数(配布数)(人)	166,000人			166,000人
	読者アンケート回答数(件)	1,000件			883人
III コスト (投入金額/結果)	読者1名あたりの経費	55円/人			55円/人
	アンケート回答数1件当たりの配布数	166部/件			187部/件
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA	
	<input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上	
	<input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上	
	<input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4586

R6-10

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境学習フェア等開催委託料
	大区分	こうちの森で人づくり事業
	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報

③	主な事業内容	森林環境学習に関するフェアや森林環境保全バスツアーを開催し、広く県民に森林環境保全の意識を理解し、関心を深めていただくための情報発信等を行う。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成30年度
	・年間約2万人を集客したイベントであった「木造住宅フェア（もくもくランド）」を全面リニューアルし、H30から林業・森林環境学習に関するフェアとして開催。 ・森林環境税の創設から20年が経過したが、森林環境保全の理解が、山や森林に触れあう機会の少ない特に都市部の方々にまで浸透しているとは言い難い。 ・令和4年度に実施した課税期間の延長に係る県民世論調査では、森林環境税の認知度が約3割に留まっており、認知度の向上が課題となっている。		

⑤	目的とねらい（成果）	・フェアでは木材利用の普及啓発と併せて、森林環境学習を行う機会を新たに加えるなど内容を見直し、幅広い県民に森林が果たす公益的機能の重要性を理解していただくことを目的として実施する。 ・会場には、林業や山側の実態を知り、理解を深めていただくため、林業関係のブースを出展するとともに、ボランティア活動をはじめとする森林保全や林業に関する様々な事業や取組への継続的な関わりのきっかけとしていただくために、それらの活動も紹介する。 ・併せて、実際に森林や林業の現場を訪れ、見て触れて体験する森林保全体験バスツアーを開催することにより、単に楽しむだけでなく、森林や林業に関心を持ち、理解を深めていただく機会とする。
---	------------	--

⑥	対象（誰、何を対象とするのか）	県民
---	-----------------	----

②	事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
	総事業費（千円）	1,148	9,462	11,983	11,821	12,634
	財源内訳	森林環境税	1,148	9,462	11,983	11,821
		一般財源				
		その他				

⑦	事業内容（手段）	1 委託先の決定：企画提案書を事業者に提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結 2 開催内容の決定：森林環境学習フェアは、県、関係団体などで組織するフェア実行委員会を月1回程度開催し、県民に森林が果たす公益的機能の重要性を伝えるための開催内容を検討し、決定。 3 開催日程・内容 (1) 森林環境学習フェア ○開催日程・場所 ・10月26日（土）、27日（日）の2日間、高知市中央公園、帯屋町アーケードで開催 ○会場全体 ・「みんなで学ぼう 木あそび楽校（がっこう）」をテーマとし、会場全体を学校に見立て、「学ぶ教室」、「体験教室」、「暮らし教室」の3つのエリアごとにテーマ性を持たせ、学べる内容や体験できる内容がわかるような会場構成とする。 ○森林環境学習ブース（6～12小間） ・来場者が森林環境を学べる場として、森林や環境に係るワークショップや木工体験を行うブースを設置。 ・森林の果たす役割や森林環境税の活用事例、森林保全ボランティアの活動内容を紹介するパネル展示を行う。 ○ステージイベント・出展ブース ・森の検定 ・森林環境保全をテーマにしたヒーローショー ・林業関係者が出演するステージやブース（計画中） ・薪割り体験 ・薪を利用したピザ焼き体験 ・ジビエ料理の提供 等 (2) 森林保全体験バスツアー ○森林や林業現場を実際に見て触れて体験していただく、バスツアーを実施。 ・開催時期：11月（親子対象）、3月（高校生以上）の年2回 ・実施場所：土佐町 ・実施内容：森林環境学習、薪割り体験、木工体験、林業体験（間伐体験など）
---	----------	--

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4586

R6-10

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	学習フェア委託料	10,040,800円			9,981,345円
	バスツアー委託料	2,510,200円			1,784,750円
	※プロポーザル事務費除く				
II アウトプット (結果)	学習フェア来場者数	18,000人			11,212人
	バスツアー参加者数	100人			68人
III コスト (投入金額/結果)	学習フェア委託料/来場者数	558円			890円
	バスツアー委託料/来場者数	25,102円			26,246円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課・主査
担当者	川田 琢人
内線	4586

R6-11

①	事業名	・細目事業名：04木の文化県構想推進事業費 ・細々目事業名：03緑化促進事業費 ・当該事業名：緑化促進事業費補助金
	大区分	こうちの森で人づくり事業
	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報

事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
②	総事業費(千円)				6,353	15,000
	財源内訳	森林環境税			6,353	15,000
		一般財源				
	その他					

③	主な事業内容	郷土樹種を活用した、モデル的な緑化における植樹や樹木展示等に要する経費に対して支援する。
---	--------	--

⑦	事業内容(手段)	市町村や県内に事業所を置く企業、団体等が実施する、幅広い県民に利用される公園や公共的施設、教育・保育施設等を郷土樹種を用いて緑化する事業に対し、森林環境税をPRすることを条件に、予算の範囲内で補助金を交付する。
		R6事業実施目標 5箇所

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和5年度
	<p>○全国一の森林率を誇る本県において、一方の都市部では緑を感じることができる空間が少ないという意見や、幼少期から身近な場所で樹木をはじめとする植物等に触れる機会の創出が必要という意見が県民から寄せられている。</p> <p>○令和4年度に実施した県民世論調査では、森林環境税の認知度が3割を下回ることが明らかになっており、都市部においても緑を体感することと併せて税の認知度を高めていく取組が必要となっている。</p> <p>○令和5年度には、事業を創設し、全3件申請があり、予算額の79%が執行されている。</p>		
	<p>目的とねらい(成果)</p> <p>○県民に身近な場所で緑に触れられる場を創出することで、県土の約84%が森林である本県の特色について県民の理解と関心を高め、緑を育み、守る活動につなげる。</p> <p>○事業とともに森林環境税のPRを行うことにより、森林環境税の認知度の向上を図る。</p>		
⑤	対象(誰、何を対象とするのか)		
	○県民		

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課・主査
担当者	川田 琢人
内線	4586

R6-11

指標の種類	指標	R 6 目標値	R 6 中間値	R 6 実績値	R 5 実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	予算	15,000,000円			6,353,000円
	事業実施施設数	5箇所			3箇所
II アウトプット (結果)	緑化施設の県民への影響度 (人/年間)	50,000人			2,967,000人
	※1カ所あたりの年間来訪者 数を10,000人と想定				
III コスト (投入金額/結果)	影響度1人あたりの費用(円)	300円			2.1円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は 上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA	
	<input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上	
	<input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上	
	<input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	横山
内線	3216

R6-12

①	事業名	・細目事業名：森林公園等管理運営費 ・細々目事業名：森林公園等管理運営費 ・当該事業名：施設整備工事請負費
	大区分	こうちの森で人づくり事業
	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報

事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
②	総事業費(千円)					5,600
	財源内訳	森林環境税				5,600
		一般財源				
	その他					

③	主な事業内容	高知県立甫喜ヶ峰森林公園において、森林環境学習のためのフィールドを整備し、本施設の森林学習施設としての機能の充実を図る。
---	--------	--

⑦	事業内容(手段)	<p>○整備計画 令和6年7月末頃 契約 令和7年2月頃 完成</p> <p>○整備エリア 甫喜ヶ峰森林公園 人工林部分</p> <p>○事業完了後の取り扱い 一般に公開し、森林環境教育のためのフィールドとして用いる。</p>
---	----------	---

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	R6
	<p>○県立甫喜ヶ峰森林公園は、「森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高めるため」設置されている施設であり、入園者数は年間5万人を超えている。</p> <p>○同公園の森林は、主にスギ・ヒノキからなる人工林が約45.5haあり、その主な林齢構成は55～60年生となっている。</p> <p>○公園内では保育間伐等の手入れが長年でできておらず、林内全体が過密状態となっており、「森林に対する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高めるため」の森林公園として一部ふさわしくない状態となっている部分がある。</p>		
	<p>目的とねらい(成果)</p> <p>○公園内に存する森林部分を間伐し、当施設の「森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高めるため」という目的に合致するように、森林学習施設としてのフィールドとして整備をする。</p>		
⑤	<p>対象(誰、何を対象とするのか)</p> <p>○主に施設に来訪した児童・生徒・学生を対象とする。</p>		

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	横山
内線	3216

R6-12

指標の種類	指標	R 6 目標値	R 6 中間値	R 6 実績値	R 5 実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	事業費(円)	5,600,000円			
II アウトプット (結果)	公園内に整備した森林環境教育のためのフィールド面積	15ha			
III コスト (投入金額/結果)	整備面積1haあたりの事業費	373,333円			
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4586

R6-13

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：座談会等開催委託料
	大区分	こうちの森で人づくり事業
	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報

事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
総事業費（千円）		—	—	—	3,045	3,230
② 財源内訳	森林環境税	—	—	—	3,045	3,230
	一般財源					
	その他					

③	主な事業内容	1) 地域座談会の企画・運営 2) 広報・PR活動
---	--------	------------------------------

⑦	事業内容（手段）	<p>1) 地域座談会（2回）の企画・運営 開催時期：中央西地区 9月中 嶺北地区 9月中 会場：中央西地区 越知町立町民会館 嶺北地区 大豊町公民館 or 本山町プラチナセンター } 調整中 主催：林業環境政策課 参加者：地域の森林保全ボランティア団体、森林組合、林業事業者、地域おこし協力隊、農業、建設業、その他一般の方等</p> <p>説明側：県 林業環境政策課、市町村林業担当課（譲与税）</p> <p>内 容：【第一部】挨拶・県からの森林環境税の説明、市町村から森林環境譲与税の説明 【第二部】優良事例の紹介（森林環境税の活用事例等） 【第三部】意見交換会（グループ討議） 座談会終了後、アンケートを実施</p> <p>2) 広報・PR活動 新聞やインターネット等を活用して広く広報し、できる限り多くの県民の参加を促すとともに、森林環境税のPRを行う。</p>
---	----------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	令和5年度
	・令和4年度に行った県民世論調査において、森林環境税の認知度が低い（約7割が知らない）という課題が明らかになった。 ・基金運営委員会や県議会において、森林環境税の成果や効果が見えにくいことや、県民意見を反映させることが必要との指摘があった。 ・以上のことから、県民へのPRを行う中で直接森林環境税について説明し、意見を聞く機会を設ける。		
⑤	目的とねらい（成果）	・座談会の開催により、森林環境税について、県民に対し直接説明する機会を設け、税への理解や認知度の向上に繋げる。 ・県民からの意見を聴取する機会を設け、森林環境保全の取組への参加意識の向上や課題の把握、事業の改善等に反映させる。	
	⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	県民	

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4586

R6-13

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	事業予算額 ※プロポーザル事務費除く	3,148,000円			2,996,400円
II アウトプット (結果)	座談会参加者数	80人			76人
	アンケート回答者数	80人			65人
III コスト (投入金額/結果)	予算÷参加者数	39,350円			39,426円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

当初・中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4586

R6-14

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：運営委員会等開催費 ・当該事業名：事務費
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
総事業費(千円)		361	236	561	405	1,399
② 財源内訳	森林環境税	361	236	561	405	1,399
	一般財源					
	その他					

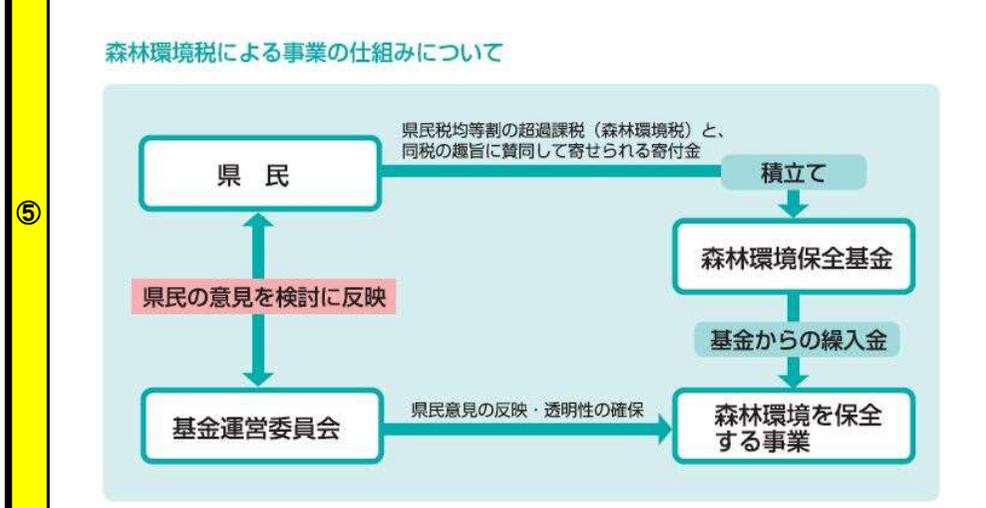
③ 主な事業内容	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。
----------	-------------------------------------

④ 事業内容(手段)	
【主な取り組み】	
1 基金運営委員会の開催 年3回	
第1回：7月18日 (1) 令和5年度森林環境税活用事業の実績報告 (2) 令和6年度森林環境税活用事業の概要 (3) 全国植樹祭について	
第2回：11月頃開催予定 (1) 令和7年度森林環境税活用事業の予算案について (2) 令和5年度森林環境税活用事業の委員評価のとりまとめ結果について (3) 令和5年度森林環境税活用事業の中間報告について	
第3回：2月頃開催予定 (1) 令和7年度森林環境税活用事業の予算案について (2) 令和4年度森林環境税活用事業評価への対応・検討状況の報告について ※第2回、第3回の議事については検討中	
2 事業評価の実施	
・ 各年度の当初、中間、実績のタイミングで委員会に状況を報告 ・ 報告内容から委員が事業評価を実施 ・ 継続実施や改善・拡充といった事業の見直し等、評価の結果を事業の運営に反映	
⑦	

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
--------------------------	--------	--------

④	
---	--

⑤ 目的とねらい(成果)	高知県森林環境保全基金の運営における県民参加と透明性の向上を図るため、基金運営委員会を開催し、森林環境税活用事業の評価や次年度予算案等について意見を伺う。
--------------	---



⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	県民
-------------------	----

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（1）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	森 真也
内線	4586

R6-14

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	事業予算額	1,399,000円			405,164円
	委員会開催回数	3回			3回
II アウトプット (結果)	委員出席者数	30人			26人
III コスト (投入金額/結果)	予算額÷出席者数	46,633円			15,583円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
	<input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
	<input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
	<input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA	
	<input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上	
	<input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上	
	<input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1)

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	岩郷 光起
内線	4593

R6-15

① 事業名	・細目事業名：高知県需要拡大対策事業費 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	森林の保全につながる木材利用

③ 主な事業内容	県内の木材活用施設、学校施設等への県産材を活用した木製品の導入や施設の内外装の整備に対する支援
----------	---

④	<p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成20年度</p> <p>【背景】 本県の豊富な森林資源の有効活用に向けては、木材の利用を促進し需要を拡大することが重要であり、県民や次世代を担う子供達に対して、木との触れ合いや木の良さを実感する機会を幅広く提供することが必要である。</p> <p>【現況】 不特定多数の方が訪れる施設の内外装木質化及び施設内への木製品の導入や、幼稚園、小中学校、高等学校、大学校、専門学校等での木製の机、椅子、木のおもちゃ等の導入を支援し、多くの県民に対し木との触れ合いや木の良さを実感する機会を提供できるような取組を推進してきた。</p> <p>【課題】 これまで、幼稚園や学校、店舗等、様々な施設へ木質化、木製品の導入、木育の推進に取り組み多くの事業体に活用していただいたが、事業規模の小さい木製品の導入が多く執行率が低下している。より多くの事業体に活用してもらうため、団体総会での事業説明および会誌へのチラシ折り込みによる広報活動の充実化を図ること。また、令和5年度以降、譲与税とのすみ分けにより事業区分が見直され、市町村への補助が対象外となったため、申請件数が減少しており、執行率（R5:10.5%）は低調となることが想定される。</p>
⑤	<p>目的とねらい（成果）</p> <p>(目的) 木の良さをPRすることにより県産材の需要拡大を図り、本県の豊富な森林資源の活用につなげる。</p> <p>(ねらい) 県産材の利用が促進され需要を拡大することはもとより、木に触れる機会を創出することで、県民（乳幼児から大人まで）の木材利用に関する理解の醸成へとつなげる。</p>
⑥	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>次世代を担う子ども達及び一般県民等</p>

②	事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
	総事業費（千円）	44,510	38,442	31,996	15,999	30,316	
	財源内訳	森林環境税	44,510	38,442	31,996	3,176	30,316
		一般財源					
		その他				12,823	

⑦	<p>事業内容（手段）</p> <p>①木材活用施設等整備 ・補助内容：木質内外装整備及び木製品の整備 ・補助先：対象施設を所有する法人、団体等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額 4,000千円）</p> <p>②学校関連環境整備 ・補助内容：学校等の木質内外装整備及び木製の机、椅子、遊具などを導入 ・補助先：社会福祉法人、学校法人、教育施設等の設置者等 ・補助率：1/2以内（補助金額25千円以上、限度額4,000千円、小・中学校の内装木質化については限度額1,000万円）</p>
---	---

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	岩郷 光起
内線	4593

R6-15

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	補助金投入金額(千円) (木材活用施設等整備)	15,000			169
	補助金投入金額(千円) (学校関連環境整備)	15,000			2,772
	事務費(千円)	316			235
II アウトプット (結果)	整備箇所数(箇所) (木材活用施設等整備)	6			1
	整備箇所数(箇所) (学校関連環境整備)	14			10
III コスト (投入金額/結果)	補助金投入金額/整備箇所数(千円) (木材活用施設等整備)	2,500			169
	補助金投入金額/整備箇所数(千円) (学校関連環境整備)	1,071			2,772
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	伊勢脇 信一
内線	3154

R6-16

① 事業名	・細目事業名：県産材用途拡大事業費 ・細々目事業名：CLT等木造建築促進事業 ・当該事業名：環境不動産評価事業
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	森林の保全につながる木材利用

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
② 総事業費(千円)				990	6,010
財源内訳	森林環境税			990	6,010
	一般財源				
	その他				

③ 主な事業内容	高知県環境不動産の認定支援及び認定制度の広報
----------	------------------------

⑦ 事業内容(手段)	
<p>①環境不動産評価事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県環境不動産認定において、設計・建築中・完成後のそれぞれのタイミングで、申請書類及び図面の確認等を専門知識を有する第三者に委託し、公平性・透明性を確保する。 ・認定要件の一つである建築環境総合評価システム(CASBEE)の勉強会を開催し、CASBEEを普及するとともに建築士等県内技術者の育成を図る。 ・高知県環境不動産の認定に向け取り組む施主又は建築士等に対し、CASBEE等の技術的助言を行うためのアドバイザーの派遣を行う。 <p>②広報活動について</p> <p>環境不動産とその認定制度についてのパンフレットを増刷し、広報周知を図ることで、県民の皆さまの環境及び木材利用に対する意識の醸成を図るとともに、認定の推進と普及を進める。</p>	

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和5年度
<p>【背景】</p> <p>地球環境への配慮やSDGs等への観点から木材利用への機運が高まっており、経済界や企業などでは、建築物への木材利用に取り組む動きが徐々に増加している。また令和2年10月には「2050年カーボンニュートラル宣言」を、12月には「グリーン成長戦略の策定」をおこなっており、翌令和3年11月には、それまでの公共建築物等木材利用促進法を、「脱炭素に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律(通称:都市(まち)の木造化推進法)」と改正し、木材利用の促進について、公共建築物から広く建築物一般に拡大した。</p> <p>【現状】</p> <p>こうした背景や県内建築物等の木造化率(非住宅と4階建て以上の中高層住宅で低位)の現状を受け、令和5年4月1日より、高知県環境不動産の建築の促進に関する条例を施行し、認定制度及び優遇措置を定めて、木材利用の普及を図っていくところ。R6年度より各種団体および企業への事業説明会にて積極的にPR活動を展開中。</p> <p>【課題】</p> <p>パンフレット配布や各種団体への個別説明等により、認知はされつつあるが認定を促すまでには至っていない。事業者側の認知度は低いと思われる。このため、さらなる事業者への周知が必要である。</p>		
⑤ 目的とねらい(成果)		
<ul style="list-style-type: none"> ・制度の制定及び広報を通して、脱炭素社会の実現と木材利用・森林整備を併せて促進していく。 ・認定を受けた建築物への優遇措置(事業者のPR支援、課税免除、容積率緩和)を通して、高知県環境不動産の建築を推進し、もって県産木材の利用の増大及び環境への負荷の低減を図る。 		
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)		
<p>認定の対象：県内に整備する非住宅及び4階建て以上の住宅</p> <p>①延べ面積 300㎡以上 ②木材利用量 0.15㎡/㎡以上 ③県産材使用率 60%以上</p>		

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	伊勢脇 信一
内線	3154

R6-16

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	環境不動産評価事業委託料 (千円)	6,010			0
	パンフレット配布数(枚)	2,000			1,000
II アウトプット (結果)	認定件数(件)	認定9(申請18)			0
III コスト (投入金額/結果)	環境不動産評価事業委託料/認定件数 (千円)	668			0
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート(1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-1

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：指定管理鳥獣捕獲等事業委託料
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	野生動植物との共存

③ 主な事業内容	一般の狩猟者による捕獲が及ばない山岳地の国及び県指定鳥獣保護区などの捕獲困難地域で、生息密度を高めているシカについて捕獲圧を高める必要があり、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託してシカ捕獲を実施する。
----------	---

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成28年度
<p>【現状】 本県では、第二種特定鳥獣管理計画でシカの年間捕獲目標を2.5万頭(令和3年度までは3万頭)と定めて、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施し、シカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標に対して2万頭前後にとどまっている。 一般の狩猟者による捕獲が及ばない、山岳地にある国及び県指定鳥獣保護区では、近年、生息数が増えたシカによる自然植生被害が深刻な状況にあり、希少植物の消失や樹木の枯死などによる生物多様性の喪失のほか、裸地化した山肌の崩壊、土砂の流出など、森林機能の低下が問題となっている。</p> <p>【これまでの経過】 これまでの捕獲実績は別添表のとおり。 過去の捕獲実績や、生息状況調査や過去の自動撮影カメラの映像等から、シカの出現頻度の高い時期に捕獲を開始し、積雪の状況を確認しながら可能な限りシカの出現頻度の高い地点での捕獲を行うことが重要であると考えられた。</p> <p>【事業の実施】 令和6年度は前年度と同様の「高岡区域」「幡多区域」でくくりわなによるシカ捕獲を実施する。例年10月から捕獲を開始していたものを9月からの捕獲開始を目指し、捕獲期間を10月から2月の140日程度→9月から11月の90日程度に絞り、シカ出現頻度の高い時期に集中的な捕獲を行う。</p>		
⑤ 目的とねらい(成果)		
<p>【本事業の目的】 一般の狩猟者による捕獲が及ばない高標高域にある国有林内鳥獣保護区及び隣接する国有林等(捕獲困難地域)における集中的なシカの捕獲圧強化を、認定鳥獣捕獲等事業者等に委託して実施し、くくりわなを主としたわな猟により、シカの生息密度の低下を図る。</p> <p>【意図すべき効果】 シカの生息密度が5~10頭/km²を超えるとシカによる食害が著しくなると言われており、本事業によるシカの生息密度低下のための捕獲を実行することで、自然植生の被害軽減及び早期回復を図る。</p>		
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)		
植生		

② 事業費の推移		R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
総事業費(千円)		11,417	11,381	9,640	12,180	9,610
財源内訳	森林環境税	5,709	5,691	4,820	6,090	4,974
	一般財源	0	0	0	0	0
	その他	5,708	5,690	4,820	6,090	4,636

⑦ 事業内容(手段)	
1 予算	当初：9,610千円 (国) 4,636千円 (森林環境税) 4,974千円
2 実施予定場所	<ul style="list-style-type: none"> ○幡多区域 <ul style="list-style-type: none"> ・八面山鳥獣保護区(四万十市西土佐奥屋内(県指定鳥獣保護区)) ・八面山鳥獣保護区隣接する国有林10林班 ○高岡区域 <ul style="list-style-type: none"> ・つづら山鳥獣保護区(四万十町大正(県指定鳥獣保護)) ・つづら山鳥獣保護区に隣接する国有林4080林班~4082林班(令和4年度~)
3 執行計画	第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会
●6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容、捕獲目標数の設定等について説明、検討 ・事業実施計画(案)の説明、検討
●7月~11月	シカの生息状況及び自然植生への被害状況等の調査(計画策定業務)
●7月上旬	事業実施計画の策定に係る協議
●7月上旬	事業実施計画(案)について環境省、森林管理局、関係市町村等との協議
●7月中旬	事業実施計画の策定
●7月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲目標頭数、事業実施区域等の確定 ・事業実施計画の報告(県→環境省)
●7月中旬	公募型プロポーザル公告
●8月	公募型プロポーザル審査委員会
●8月下旬	シカ捕獲事業委託業務委託(委託先：認定鳥獣捕獲等事業者)
●9月~11月下旬	国有林内(鳥獣保護区等)でわな猟によるシカ捕獲の実施
●11月	捕獲中のシカ生息状況等の調査(計画策定業務)
●1月	捕獲終了報告(委託先→県)
●2月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・変更契約(捕獲目標数に届かなかった場合等)
●2月中旬	第2回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会
●2月中旬	シカの捕獲数や生息状況等の調査結果を基に、事業効果の評価、検証

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-1

指標の種類	指標	R 6 目標値	R 6 中間値	R 6 実績値	R 5 実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	捕獲事業経費(高岡区域)	4,805,000円			5,724,741円
	捕獲事業経費(幡多区域)	4,805,000円			6,455,559円
II アウトプット (結果)	捕獲頭数(高岡区域)	20			9
	捕獲頭数(幡多区域)	20			31
III コスト (投入金額/結果)	シカ1頭の捕獲に要する経費(円)(高岡区域)	240,250円			636,082円
	シカ1頭の捕獲に要する経費(円)(幡多区域)	240,250円			208,244円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-2

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：指定管理鳥獣捕獲等事業計画策定調査業務
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	野生動植物との共存

③ 主な事業内容	指定管理鳥獣捕獲等事業の対象地域である「高岡区域」及び「幡多区域」のシカ生息密度を調査し、実施計画策定のための検討会を開催する。 県内全域のシカ生息密度調査及びデータ集計を行い、令和7年度以降のシカ捕獲事業の実施予定地や実施内容の検討に活用する。
----------	--

④	<table border="1"> <tr> <th>現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)</th> <th>事業開始年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> <tr> <td>本県では、令和2年度末時点でのニホンジカ推定生息密度をもとに第5期高知県第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画(令和4年4月～令和9年3月)を策定しており、令和6年度に目標頭数等の中間評価を実施する予定である。県内をAブロック(県西部)、Bブロック(県中部)、Cブロック(県東部)に分け、それぞれに捕獲目標頭数を設定しているが、Aブロックでは捕獲目標(7,000頭)を達成しているものの、Bブロック(2,000頭)及びCブロック(16,000頭)では目標頭数に至っていない。 これらのことから、県内の最新のニホンジカ推定生息密度を推計し、令和6年度に行われる第二種特定鳥獣管理計画の中間評価に活用するとともに、令和7年度以降の指定管理鳥獣捕獲等事業の実施予定地を選定する必要がある。</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和6年度	本県では、令和2年度末時点でのニホンジカ推定生息密度をもとに第5期高知県第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画(令和4年4月～令和9年3月)を策定しており、令和6年度に目標頭数等の中間評価を実施する予定である。県内をAブロック(県西部)、Bブロック(県中部)、Cブロック(県東部)に分け、それぞれに捕獲目標頭数を設定しているが、Aブロックでは捕獲目標(7,000頭)を達成しているものの、Bブロック(2,000頭)及びCブロック(16,000頭)では目標頭数に至っていない。 これらのことから、県内の最新のニホンジカ推定生息密度を推計し、令和6年度に行われる第二種特定鳥獣管理計画の中間評価に活用するとともに、令和7年度以降の指定管理鳥獣捕獲等事業の実施予定地を選定する必要がある。		
現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	令和6年度					
本県では、令和2年度末時点でのニホンジカ推定生息密度をもとに第5期高知県第二種特定鳥獣(ニホンジカ)管理計画(令和4年4月～令和9年3月)を策定しており、令和6年度に目標頭数等の中間評価を実施する予定である。県内をAブロック(県西部)、Bブロック(県中部)、Cブロック(県東部)に分け、それぞれに捕獲目標頭数を設定しているが、Aブロックでは捕獲目標(7,000頭)を達成しているものの、Bブロック(2,000頭)及びCブロック(16,000頭)では目標頭数に至っていない。 これらのことから、県内の最新のニホンジカ推定生息密度を推計し、令和6年度に行われる第二種特定鳥獣管理計画の中間評価に活用するとともに、令和7年度以降の指定管理鳥獣捕獲等事業の実施予定地を選定する必要がある。							
⑤	<table border="1"> <tr> <th>目的とねらい(成果)</th> </tr> <tr> <td>【本事業の目的】 ・令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施予定地である高岡区域及び幡多区域内の出現頻度等調査を行い、捕獲事業実施のための実施計画を策定する。捕獲終了後は捕獲によるシカ生息数の変化の調査と植生回復状況のモニタリングを行う。また、県内全域の最新のニホンジカ生息状況調査を実施するとともに、令和7年度以降の捕獲事業実施候補地における詳細のニホンジカ生息状況調査を調査する。また、本調査で得られたデータは第二種特定鳥獣管理計画の中間評価に活用する。</td> </tr> </table>	目的とねらい(成果)	【本事業の目的】 ・令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施予定地である高岡区域及び幡多区域内の出現頻度等調査を行い、捕獲事業実施のための実施計画を策定する。捕獲終了後は捕獲によるシカ生息数の変化の調査と植生回復状況のモニタリングを行う。また、県内全域の最新のニホンジカ生息状況調査を実施するとともに、令和7年度以降の捕獲事業実施候補地における詳細のニホンジカ生息状況調査を調査する。また、本調査で得られたデータは第二種特定鳥獣管理計画の中間評価に活用する。				
目的とねらい(成果)							
【本事業の目的】 ・令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施予定地である高岡区域及び幡多区域内の出現頻度等調査を行い、捕獲事業実施のための実施計画を策定する。捕獲終了後は捕獲によるシカ生息数の変化の調査と植生回復状況のモニタリングを行う。また、県内全域の最新のニホンジカ生息状況調査を実施するとともに、令和7年度以降の捕獲事業実施候補地における詳細のニホンジカ生息状況調査を調査する。また、本調査で得られたデータは第二種特定鳥獣管理計画の中間評価に活用する。							
⑥	<table border="1"> <tr> <th>対象(誰、何を対象とするのか)</th> </tr> <tr> <td>植生</td> </tr> </table>	対象(誰、何を対象とするのか)	植生				
対象(誰、何を対象とするのか)							
植生							

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
② 総事業費(千円)					14,047
財源内訳	森林環境税				6,686
	一般財源				0
	その他				7,361

⑦	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業内容(手段)</th> </tr> <tr> <td>1 予算</td> <td>当初：14,047千円 (森林環境税) 6,686千円 (国) 7,361千円</td> </tr> <tr> <td>2 執行計画</td> <td></td> </tr> <tr> <td>● 5月30日</td> <td>業務委託契約 ・委託先 専門業者 ・契約方法 指名競争入札</td> </tr> <tr> <td>● 6月上旬～中旬</td> <td>高岡区域・幡多区域における生息状況調査 ・自動撮影カメラによる出現頻度調査</td> </tr> <tr> <td>● 6月28日</td> <td>第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会</td> </tr> <tr> <td>● 7月上旬</td> <td>事業実施計画策定</td> </tr> <tr> <td>● 7月中旬～</td> <td>次期捕獲事業実施候補地調査 ・自動撮影カメラによる出現頻度調査 ・現地調査</td> </tr> <tr> <td>● 8月</td> <td>高岡区域・幡多区域における植生調査 ・シカ食害及び捕獲事業効果の検証</td> </tr> <tr> <td>● 10月～11月</td> <td>県全域での糞塊法調査 ・令和2年度に実施した糞塊法調査70ルートによる調査 ・現地踏査</td> </tr> <tr> <td>● 11月～12月</td> <td>高岡区域・幡多区域における糞粒法調査 ・事業効果の検証</td> </tr> <tr> <td>● 2月中旬</td> <td>第2回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・高岡区域・幡多区域における捕獲事業の事後評価 ・県内の最新の推定生息密度の確認 ・令和7年度以降の捕獲事業実施予定地の確定</td> </tr> <tr> <td>● 3月上旬</td> <td>報告書の確認、受理</td> </tr> </table>	事業内容(手段)		1 予算	当初：14,047千円 (森林環境税) 6,686千円 (国) 7,361千円	2 執行計画		● 5月30日	業務委託契約 ・委託先 専門業者 ・契約方法 指名競争入札	● 6月上旬～中旬	高岡区域・幡多区域における生息状況調査 ・自動撮影カメラによる出現頻度調査	● 6月28日	第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会	● 7月上旬	事業実施計画策定	● 7月中旬～	次期捕獲事業実施候補地調査 ・自動撮影カメラによる出現頻度調査 ・現地調査	● 8月	高岡区域・幡多区域における植生調査 ・シカ食害及び捕獲事業効果の検証	● 10月～11月	県全域での糞塊法調査 ・令和2年度に実施した糞塊法調査70ルートによる調査 ・現地踏査	● 11月～12月	高岡区域・幡多区域における糞粒法調査 ・事業効果の検証	● 2月中旬	第2回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・高岡区域・幡多区域における捕獲事業の事後評価 ・県内の最新の推定生息密度の確認 ・令和7年度以降の捕獲事業実施予定地の確定	● 3月上旬	報告書の確認、受理
事業内容(手段)																											
1 予算	当初：14,047千円 (森林環境税) 6,686千円 (国) 7,361千円																										
2 執行計画																											
● 5月30日	業務委託契約 ・委託先 専門業者 ・契約方法 指名競争入札																										
● 6月上旬～中旬	高岡区域・幡多区域における生息状況調査 ・自動撮影カメラによる出現頻度調査																										
● 6月28日	第1回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会																										
● 7月上旬	事業実施計画策定																										
● 7月中旬～	次期捕獲事業実施候補地調査 ・自動撮影カメラによる出現頻度調査 ・現地調査																										
● 8月	高岡区域・幡多区域における植生調査 ・シカ食害及び捕獲事業効果の検証																										
● 10月～11月	県全域での糞塊法調査 ・令和2年度に実施した糞塊法調査70ルートによる調査 ・現地踏査																										
● 11月～12月	高岡区域・幡多区域における糞粒法調査 ・事業効果の検証																										
● 2月中旬	第2回指定管理鳥獣捕獲等事業検討会 ・高岡区域・幡多区域における捕獲事業の事後評価 ・県内の最新の推定生息密度の確認 ・令和7年度以降の捕獲事業実施予定地の確定																										
● 3月上旬	報告書の確認、受理																										

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

（当初・中間・実績）

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-2

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	R6捕獲事業実施区域内調査	5,056,920円			
	県内シカ生息状況調査	7,725,850円			
	R7年度以降の捕獲事業候補地調査	1,264,230円			
II アウトプット (結果)	R6捕獲事業実施区域調査 (区域)	2			
	県内シカ生息状況調査 (ルート数)	70			
	R7年度以降の捕獲事業候補地調査 (区域)	2			
III コスト (投入金額/結果)	R6捕獲事業実施区域内調査 (1区域あたり)	2,528,460円			
	県内シカ生息状況調査 (1ルート当たり)	110,369円			
	R7年度以降の捕獲事業候補地調査 (1区域あたり)	632,115円			
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である	
	<input type="radio"/> B. 概ね妥当である	
	<input type="radio"/> C. あまり妥当でない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い	
	<input type="radio"/> B. 概ね高い	
	<input type="radio"/> C. あまり高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている	
	<input type="radio"/> B. 概ね上がっている	
	<input type="radio"/> C. あまり上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA	
	<input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上	
	<input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上	
	<input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
⑩

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-3

①	事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：第二種特定鳥獣捕獲推進事業費補助金
	大区分	豊かな森づくり事業
	小区分	野生動植物との共存

③	主な事業内容	シカによる農林業被害や自然植生被害を軽減するため、市町村が当該地域で普及している使い勝手の良いくくりわなを一括購入し、狩猟者に配布(貸与)することにより、シカ捕獲を短期的かつ集中的に推進する。
---	--------	--

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成28年度
	<p>本県では、第二種特定鳥獣管理計画でシカの年間捕獲目標を2.5万頭(令和3年度までは年間3万頭)と定めて、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施しシカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標に対して2万頭前後にとどまっている。</p> <p>県内の狩猟によるシカ捕獲数のうち、およそ80%は「くくりわな(わな猟)」による捕獲であるため、くくりわなの設置数の増加によるシカ捕獲を推進し、短期的かつ集中的に年間捕獲目標数に近づける必要がある。</p>		

⑤	目的とねらい(成果)	(本事業の目的) 近年、シカの年間捕獲数は、目標2.5万頭(令和3年度までは3万頭)に対して2万頭前後にとどまっている現状にあり、依然として農林業被害や自然植生被害は深刻な状況にある。
	<p>シカが多く生息している地域やシカ被害対策を推進しようとする市町村において、より多くのくくりわなを設置し、シカ捕獲を推進する。</p> <p>(意図すべき効果) 令和6年度以降もくくりわなの設置数を増加させて、一挙に捕獲圧を高めることにより、シカの年間捕獲数を捕獲目標2.5万頭に近づけて、シカの生息数の早期の削減を図る。</p>	

⑥	対象(誰、何を対象とするのか)	植生
---	-----------------	----

②	事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
	総事業費(千円)			20,751	20,683	9,420
財源内訳	森林環境税			10,375	10,342	9,420
	一般財源			0	10,341	0
	その他			10,376	0	0

⑦	事業内容(手段)	市町村が、わな猟免許所有者(ただし、事業実施年度において高知県の狩猟者登録を受けている者、又は受けることが確実な者であること)に配布するシカ用くくりわなの購入に要する経費(ただし、送料、梱包料、代金振込手数料等のくくりわな本体以外に係る経費は対象外)を補助する。(定額)
	【予算】	令和6年度 9,420千円(森林環境税9,420千円) =平均6,280円/基×1,500基
⑧	【執行計画】	●4月~9月31日 市町村から補助金交付申請
	●4月~	補助金交付決定 ・交付申請のあった市町村から随時交付決定を行う。
⑨	●4月~	くくりわなの配布 ・市町村は、概ね猟期の始まり(11月15日)までに狩猟者への配布を完了する。 ・配布を受けた狩猟者は、有害捕獲や狩猟で配布くくりわなにてシカ捕獲を行う。
	●11月~	市町村から補助金実績報告 ・配布対象者全員にくくりわなの配布を完了したか、又は対象者全員が狩猟者登録を受けたことが確認できた日を事業完了年月日とする。
⑩	●R7年度4月下旬	検査及び支払い
	●R7年度4月下旬	捕獲記録の提出(配布年度から3ヶ年間) ・配布を受けた狩猟者は、翌年度に市町村に提出する。 ・市町村は取りまとめた後、県に提出する。

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-3

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	第二種特定鳥獣捕獲推進事業費補助金	9,420,000円			10,341,310円
	配布くくりわな数(基)	1,500			1,618
II アウトプット (結果)	配布くくりわなによるシカ捕獲頭数(頭)	1,000			集計中
III コスト (投入金額/結果)	くくりわな1基あたりの費用	6,280円			6,391円
	1頭の捕獲に要する経費(円)	9,420円			集計中
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考	
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない		
	II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
		III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない
総合評価			<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある

⑩ 令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート(1) (当初中間・実績)

R6-17-4

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	野生動植物との共存

③ 主な事業内容	狩猟によるシカの捕獲実績が上位である市町村においてシカによる森林及び自然植生被害を軽減するため、狩猟期（11月15日～3月31日）のうち概ね2月末までのシカ捕獲に対して捕獲報償金を支出する。
----------	---

④	<p>現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成28年度</p> <p>【現状】 本県では、市町村による有害捕獲や狩猟期の捕獲対策等を実施し、シカ捕獲を推進しているが、近年は、年間捕獲目標頭数2.5万頭（令和3年度までは3万頭）に対して2万頭前後にとどまっている。 近年、生息数が増えたシカによる自然植生被害が深刻な状況にあり、希少植物の消失や樹木の枯死などによる生物多様性の喪失のほか、裸地化した山肌の崩壊、土砂の流出など、森林機能の低下が問題となっている。 令和4年度までは、H29～R3年度狩猟期のシカの捕獲頭数が全県のおよそ50%を占めており、県境付近に接しているために隣県からのシカの流入が顕著であり、シカによる天然林及び自然植生被害やスギ・ヒノキ人工林等の林業被害が多くみられる、「安芸市、四万十市、香美市、大豊町、四万十町」にて本事業を実施した。 本県で策定している第5期高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画（令和4年4月～令和9年3月）において、Cブロック（県東部）では年間捕獲目標16,000頭を達成しておらず、県東部においてシカによる被害が減少していないと考えられる。</p> <p>【事業の実施】 令和5年度までの5市町に加え、依然としてシカの推定生息密度の高い県東部の中でH30～R4年度狩猟期のシカの捕獲頭数が上位である「室戸市」、「東洋町」、「馬路村」の3市町村にシカ捕獲報償金支払事務を委託し、シカの狩猟期間（11月15日～3月31日間）のうち、3月末までに市町村が狩猟者への捕獲報償金（8,000円/頭）の支払処理を完了したものを対象に委託料を支払う。（概ね2月末まで（106日間：狩猟期間のおよそ70%）に捕獲されたものを想定）</p>
⑤	<p>目的とねらい（成果）</p> <p>【本事業の目的】 生息頭数の多い場所でシカを捕獲することにより、シカによる自然植生被害等で低下した森林の持つ公益的機能（水源のかん養、土砂の流出防備など）の早期回復を図り、林業被害を防止する。 また、委託により事業を実施することで、早期に報償金の支払が行えることから、早期の捕獲が期待できる。</p>
⑥	<p>対象（誰、何を対象とするのか）</p> <p>植生</p>

②	<table border="1"> <tr> <th>事業費の推移</th> <th>R2(決算額)</th> <th>R3(決算額)</th> <th>R4(決算額)</th> <th>R5(決算額)</th> <th>R6(予算額)</th> </tr> <tr> <td>総事業費(千円)</td> <td></td> <td>13,407</td> <td>16,582</td> <td>19,135</td> <td>21,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">財源内訳</td> <td>森林環境税</td> <td>13,407</td> <td>16,582</td> <td>19,135</td> <td>21,000</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	総事業費(千円)		13,407	16,582	19,135	21,000	財源内訳	森林環境税	13,407	16,582	19,135	21,000	一般財源	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)																								
総事業費(千円)		13,407	16,582	19,135	21,000																								
財源内訳	森林環境税	13,407	16,582	19,135	21,000																								
	一般財源	0	0	0	0																								
	その他	0	0	0	0																								

⑦	<p>事業内容（手段）</p> <p>1 予算 当初：21,000千円（森林環境税）21,000千円 実績：</p> <p>2 執行計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●10月 委託契約（8市町村） ・委託先：安芸市、四万十市、香美市、大豊町、四万十町、室戸市、東洋町、馬路村 ・契約方法：随意契約 ●11月15日 狩猟期開始 ●11月～2月 市町村への進捗管理 ●2月末 事業対象分終了 ・概ね2月末までの捕獲に対して報償金の支払 ●3月 事業終了報告（8市町村 → 県） ●3月 委託業務完了 ・完成検査
---	---

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	中山間地域対策課鳥獣対策室
担当者	本田
内線	9039

R6-17-4

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	森林環境保全対策シカ捕獲事業委託料	21,000,000円			19,135,200円
II アウトプット (結果)	シカ捕獲頭数(頭)	2,500			2,278
III コスト (投入金額/結果)	シカ1頭あたりにかかる費用	8,400円			8,400円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート（1）

（当初・中間・実績）

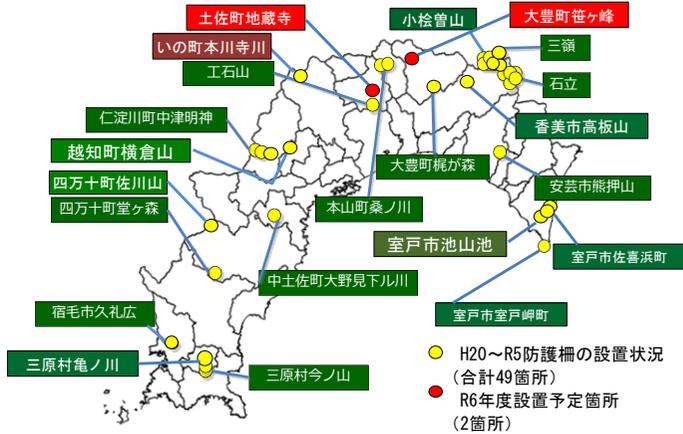
担当課・係名	自然共生課
担当者	羽原
内線	4842

R6-18

① 事業名	・細目事業名：希少動植物保護対策事業 ・細々目事業名：希少野生植物食害対策事業 ・当該事業名：希少野生植物食害対策事業
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	野生動植物との共存

③ 主な事業内容	1) 希少野生植物の食害状況調査、防護柵設置候補地選定、防護柵設置計画作成 2) 防護柵設置、防護柵の補修 3) 防護柵設置後のモニタリング調査
----------	--

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成20年
平成20年度から特にニホンジカによる希少野生植物の食害が深刻化。このまま食害が進んだ場合、希少野生植物が絶滅する可能性の高い山域の被害実態調査を実施し、緊急性の高い場所に防護柵（保護ネット）を設置するなど、希少野生植物の保護を行っている。また、設置した防護柵周辺で、生育範囲拡大などの回復状況等のモニタリングを行い、設置効果、植物個体群や防護柵破損の状況を把握のうえ適切な処置を行う。



⑤ 目的とねらい（成果）
（事業の目的）
県内の山岳地帯において、ニホンジカによる食害が非常に拡大しており、被害の実態を調査するとともにその対策を講じる。
（意図すべき成果）
現地調査等を行って、全県的な被害状況を把握し、急激な食害進行に対応することで、希少野生植物の保護を行う。

⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）
県内に分布する保全上重要な希少野生植物

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)	
総事業費（千円）	14,902	16,864	11,637	12,107	13,156	
財源内訳	森林環境税	14,902	16,864	11,637	12,107	13,156
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）

- 調査・検討・対策の計画
野生植物に関する専門的知識を持つ者による食害状況等の調査を行い、調査結果及び専門的知見により防護柵（保護ネット）設置計画を立てる。
【R6年度実施：調査県内5箇所、柵設置指導2箇所】
- 対策の実施（防護柵設置）
防護柵（保護ネット）設置計画に基づき、専門家の指示の下、防護柵を設置する。
【R6年度計画：土佐市地藏寺172m、大豊町笹ヶ峰70m】
- モニタリング等
昨年度までに設置した防護柵（保護ネット）周辺で生育範囲拡大などの回復状況等のモニタリングや現地ヒアリングを行い、設置効果、植物個体群や防護柵破損の状況を把握のうえ適切な処置を行う。
【R6年度計画：全箇所の点検、モニタリング調査22/49箇所】

調査・検討・対策計画作成 → 公益財団法人高知県牧野記念財団に委託
シカの捕獲データや希少野生植物の分布など現地調査を行い、防護柵設置計画を作成。

↓

対策の実施（防護柵設置） → 管轄の森林組合等に委託
設置計画に基づき、防護柵を設置。

↓

モニタリングの実施 → 県内コンサルタント会社に委託
防護柵設置後の植生の回復状況等のモニタリング調査を実施し、防護柵の効果等を把握。全箇所の防護柵の破損状況を点検し軽微な修繕も実施。

※R5年度は防護柵等設置により、66種の希少野生植物の自生地を保護している。

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート(2)

(当初・中間・実績)

担当課・係名	自然共生課
担当者	羽原
内線	4842

R6-18

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
⑧ I インプット (投入した予算・人・モノ等)	希少野生植物調査費用(円)	2,596,000円			2,596,000円
	防護柵設置費用(円)	979,000円			238,480円
	モニタリング調査費用(円)	9,581,000円			9,273,000円
II アウトプット (結果)	食害拡大地域の現地調査箇所数(箇所)	5箇所			5箇所
	防護柵設置(柵延長距離)(m)	242m			50m
	植生回復状況(各調査地点1㎡当たりの植被率(%)の推移)(%)	70.0%			85.7%
	防護柵新設により保護される希少植物優先度点数(点)	50点			44点
III コスト (投入金額/結果)	防護柵1m設置に係る経費(円)	14,773円			56,690円
	設置済防護柵1箇所当りモニタリング経費(円)	195,531円			193,188円
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

⑩	令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)
---	-------------------------

令和6年度 森林環境税活用事業事業評価シート (1) (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	西山
内線	4876

R6-19

① 事業名	・細目事業名：森林資源循環利用促進事業費 ・細々目事業名：森林資源再生支援事業費 ・当該事業名：シカ防護柵点検管理
大区分	豊かな森づくり事業
小区分	野生動植物との共存

事業費の推移	R2(決算額)	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(予算額)
② 総事業費(千円)					1,617
財源内訳	森林環境税				1,617
	一般財源				
	その他				

③ 主な事業内容	シカ防護柵の点検及び簡易な補修を行うことにより、防護柵の機能を維持し、シカなどの野生動物からの食害を防止することで、健全な森林を生育する。
----------	---

⑦ 事業内容(手段)	<p>2人1組で防護柵の周囲を踏査し、防護柵に軽微な異常があれば簡易な補修を実施する。</p> <p>○補助単価 定額：21,000円/日・2人</p> <p>○確認内容(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支柱：傾倒などの異常。 ・張りロープ：ロープに緩みや切断。支柱キャップの脱落。 ・防護ネット：破損。 ・押さえロープ：破損。地面と隙間。アンカー杭の抜け。 <p>○簡易な補修の対象とするもの(例)</p> <p>小規模なネットの破れ、アンカー杭の抜け、ネット下部の浮き上がり、張りロープの緩み、支柱の傾き等の補修、ネット下部の堆積物の除去など。</p>
------------	---

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	<p>事業開始年度 R6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防護柵の設置後、シカなどの野生動物による破壊や降雨等の自然災害による破損が発生すると、シカが造林地に侵入し苗木の食害が発生している。 ・再造林面積が増える中で、点検を必要とする防護柵の延長も増加傾向にある。 ・低密度植栽を推進するためにも、確実にシカ等による食害を防ぐことが必要。
⑤ 目的とねらい(成果)	・防護柵の点検及び簡易な補修を行うことにより、防護柵の機能を維持し、苗木の食害を防ぐことで健全な森林を育成する。
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	<p>林業事業体</p> <p>植栽された苗木</p>

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（2）

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	西山
内線	4876

R6-19

指標の種類	指標	R6目標値	R6中間値	R6実績値	R5実績
I インプット (投入した予算・人・モノ等)	防護柵点検管理費	1,617,000円			
II アウトプット (結果)	再造林面積	160ha			
III コスト (投入金額/結果)	防護柵点検管理費/再造林面積	10,100円			
IV アウトカム (成果)					

評価の項目	評価の結果	備考
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	
III 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
総合評価	<input type="radio"/> A. I～IIIの評価が全てA <input type="radio"/> B. I～IIIの評価が全てB以上 <input type="radio"/> C. I～IIIの評価が全てC以上 <input type="radio"/> D. I～IIIの評価にDがある	

令和7年度以降の方向性(課題に対する対応など)